

あなたのペースで大丈夫。踏み出す一步をサポートします



「相談窓口に行くことが難しい」「外出が辛い」という人のもとへ、精神保健福祉士の資格などがある相談員が自宅や当事者が話しやすい場所へ訪問します。

ひきこもりや社会的孤立などで、支援につなげていない20歳以上の人やその家族が対象です。話を聴いたり、必要な支援先につないだりするサポートもします。

ひきこもり状態にある人やその家族を対象に、専門の相談員による個別相談を通じて、一人一人の状況や課題を把握します。

生活リズムや生活習慣の改善、コミュニケーションの練習、就労体験などその人のペースに合わせた段階的な支援を行い、社会とのつながりを取り戻すお手伝いをします。

事例③

兄が長年ひきこもっている。両親が亡くなり、生活のことが心配。
自分の家庭もあるし、どこかに今後のことを相談できる場所はないか…



事例②

真面目に働いていたのに、職場の人間関係がうまくいかず会社を辞めた息子。それ以来ずっと部屋にこもったまま。どう接すればいいのか、親として何かしてあげられないか…



事例①

高校を辞めてから、もう何年もたつ。外に出たい気持ちはあるのに、玄関のドアをどうしても開けられない。
家族にも迷惑をかけていて、自分でもどうすればいいかわからない…

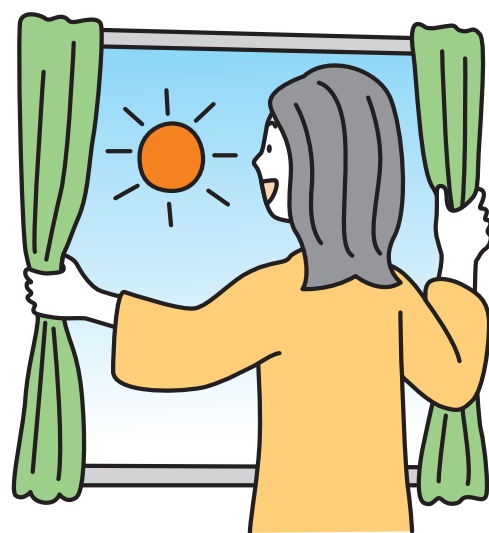
ひきこもりの悩みは、家族だけで解決しようとしなくて大丈夫です。まずは、あなたの話を聴かせてください。

こんな悩みを抱えていませんか？

ひきこもりの人への支援を充実

困生活支援課 ☎046(235)9015

今日のあなたに
届きますように



市は、さまざまな理由から社会とのつながりを持ちにくく、孤独を感じている人、日常生活の中で困りごとを抱えている人、家族を含む周囲との交流が少なくなっている人やその家族に寄り添う支援を行っています。10月からスタートした支援事業(7頁)も紹介します。

ひきこもりは、誰にでも起こりうる

令和5年3月に公表された国の調査によると、15歳〜64歳のひきこもり状態にある人は全国で推計146万人で、50人に1人いることが分かりました。調査ではひきこもりが生活の状況や環境の変化によって、誰でもいつでもなりうるものとされています。

中の動きが急に化した時のような社会情勢なども関わってきます。「はつきりとしたきつかけが分からない」という人も少なくありません。相談内容や年齢層にも幅があります。
市が当事者と関わる中で把握したデータ(下グラフ)からも同様の傾向が読み取れます。
一人で抱え込まずに相談してください。

市が支援するひきこもりの現状(独自集計)

